

『砂漠の水たまり』

～儚さについての思索～

青い広大な空から降り注ぐ雨粒を味わいながら、
自分が水たまりであることを忘れてしまいがちです。

潤いが少ない世界で、私は液体の異常現象です。

雲が厚くなり、再び雨粒が現れると、
突然命が蘇ります。

私の周囲の無数の生き物は、
一瞬の熱狂の中で目覚めるのです。

その後、嵐が消え、雲が消えた直後に、
私の存在は空虚な窪みになります。
そして、また次のサイクルが始まります。

- T Newfields (訳: 新田博)

開始: 2007年 東京都 完成: 2024年 横浜市